

「がんばろう、なとり」

東日本大震災 名取市支援活動報告

2011.4.12

4月11日の朝6時、田岡市長や図書館職員などに見送りをいただき名取市に向け、避難所で子どもたちに読んであげるための本や紙芝居など、また、名取市図書館の散乱した本の整理に必要なものを積んだワゴン車で、石狩市民図書館を出発しました。

函館からはフェリーで青森に、そして東北自動車道で約400キロを走行して、名取市図書館に到着したのは午後9時17分。そこでは夜分にもかかわらず、菅井名取市図書館長が待っていてくれました。

移動にほぼ1日を要したため、実際の活動の初日は12日となりました。

「雪がちらつく寒い朝、 しかし、元気に朝9時に佐々木名取市長などを訪問」

田岡市長から預かったメッセージを渡しました。
それに対し、佐々木名取市長から心からの感謝の言葉をいただきました。

また、図書館や本そのものが持つ魅力や大切さについて熱く語られました。

さらに、お忙しい中を被害の状況について詳しく説明をいただきましたが、子どもたちが受けた心の傷については、取り分け心配されている様子でした。



被害について説明する佐々木市長



丸山教育長

その後、丸山教育長にもお会いしましたが、市長同様に支援に対する感謝の言葉をいただきました。別れ際に、「皆さんのお帰りの時期には、桜が咲いているかもしれません」とおっしゃった言葉が何とも印象的でした。

「事前に写真では見ていたけれど・・・」

名取市図書館の地震による被害の状況は、ホームページなどで拝見し、およそのイメージをもって訪問しましたが、現実を目の当たりにすると、改めて今回の災害の大きさを思い知らされました。

図書館は水(津波)の被害はありませんでしたが、地震の揺れで壁にヒビが入り、書架は倒れ、本が散乱していました。どこから、どのように整理をしてよいのか……。しばし、立ち尽くしてしまいました。

図書館や離れの倉庫の様子



図書館全景（外目は被害が無さそうだが・・・）



2階書庫

1階入り口付近の資料を整理し、
かろうじて通路を確保している



離れの倉庫（手前と奥の2か所）



2階新聞収蔵棚からは全て落下

トイレの壁も崩れ落ちている



離れの倉庫内は足の踏み場もない

**「支援活動の打ち合わせ、
武田教育委員長、大橋ハマボウフウの会会長も駆けつけてくれました」**

図書館の状況を把握後、散乱した資料整理の準備について、また、13日に石狩市を出発する支援物資の受け入れなどについて、今週のスケジュールを確認しました。

途中、武田教育委員長が私どもの活動に感動し、是非お会いしたいと予定されていたようで、「こんな大変な時期だからこそ、今、図書館が元気を出して市民のために役立ってほしい」と、激励と感謝のお話をいただきました。

また、石狩市と名取ハマボウフウの会は、10年来のお付き合い。大橋会長も石狩市からの訪問の情報を聞き、いらっしやっただのこと。

ご自宅は津波で流され被害を受けましたが、自然保護活動への情熱は未だ熱く、前向きな様子で、途中、有田石狩市環境室長とも電話で近況を報告しました。



右から武田教育委員長、菅井館長

「避難所2か所、ラジオ体操、読み聞かせ、紙芝居」



名取二中のラジオ体操

翌日から予定している避難所での読み聞かせ等の下見（情報収集）に、2か所の避難所を訪問しました。

「名取二中」では、思ってもいなかった「ラジオ体操パフォーマンス」を壇上ですることになりました。このことで、避難している方との距離が縮まりました。

その後、「市文化会館」へ移動。名取市図書館の配慮もあり、急ぎょ遊んでいた子どもたちに声をかけ、紙芝居、絵本、ピックブックを読み聞かせすることができました。

子どもたちから「明日も来てね～」と言われ、思わず、こちらの方が元気をもらいました。「明日も必ず来よう！」と心の中で誓いました。



市文化会館での読み聞かせ

編集後記

本日予定した活動終了後、甚大な被害を受けた閑上（ゆりあげ）地区を視察しました。

海岸線に近づくと景色が一変し、目の前に車、船、家が・・・、思わずテレビの映像、写真ではないか、との錯覚に陥りました。



「がんばろう、なとり」 No.2

東日本大震災 名取市支援活動報告

2011.4.13

名取市での支援活動の2日目、そろそろこちらの地理や景色、余震にも慣れてきました。名取市図書館の職員の皆さんや、避難所で生活されている方などともコミュニケーションを図りながら、自分たちの責務を模索する毎日ですが、現地にいさせていただいていることで、私たちにでもできることが、想像以上に多いことが分かってきました。

「支援物資の受入準備と図書館の応急処置」

14日に石狩市から、おむつ、ティッシュなどの救援物資や図書館の図書整理のための段ボールが名取市に到着の予定。

そのため、物資受け入れの確認や、図書館の一角に段ボール2,000箱を受け入れるためのスペースを作りました。

その後、避難所の子どもたちに届ける絵本や児童書等を入れたブックンボックス（石狩市の学校への貸出の愛称）の準備、また、館内のヒビが入って危険な窓ガラスを取り除き、ガムテープで塞ぐなどの応急処置を行いました。



このようにガラスは何枚も割れヒビが入っています

予想以上に被害が大きく、応急処置が終わると、随分と布テープが目立つようになってしまいました。



絵本や児童書を入れたブックンボックス

「書庫の整理を始めました」

名取市図書館復活に向けての第一歩になる書庫の整理を始めました。特に、2階の被害が大きいため、作業スペースを確保するため、1階の倒れた書庫や散乱した資料を片づけて通路を確保しました。建物自体の傷は目立ちますが、1階の入り口付近だけをみると、元に近い状態になりました。



次に、比較的被害の少ない離れの書庫整理です。離れは2棟あり、どちらも本が床一面に散乱しています。

来週から地元のボランティアの方々と一緒に作業をすることになっているので、作業の内容や手順の打合せと準備をしました。



倒れた書架を撤去し、本、テープを整理



『むかしあそび』と『おはなし会』のプレゼントに、こどもたちが大喜び！

～ 避難所や児童センターを訪問しました ～

午後からは避難所で読み聞かせなどを行うとともに、昔あそびのおもちゃを子どもたちに手渡しました。

最初に訪れた文化会館では、子どもたちが絵本そっちのけでおもちゃに夢中になってしまったので、本は1冊にし、思い切り子どもたちとコマや糸電話でいっしょになって遊びました。元気な子どもたちに我々も癒されました。



コマで遊ぶ職員と避難所の子ども

(左) 糸電話で遊ぶ職員と避難所の子ども

(下) 地元のボランティア「おはなしキラキラの会」の読み聞かせ



その後、館腰小学校横の児童センターを訪問し、約20名の児童に地元のボランティア「おはなしキラキラの会」と一緒におはなし会を行いました。



児童センターで

「おならうた」を大合唱

「キラキラ」の皆さんは、手遊び・パネルシアター・絵本と多彩な内容で、私たち石狩組も負けじと3人が絵本を読み、最後の「おならうた」という絵本の時は、子どもたちの大合唱となる人気ぶりでした。児童センターには、明日も再訪問することになりました。

なお、「キラキラ」のメンバーお一人が、この度の震災で犠牲になられたとのこと。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

「お世話になっている方々 ～ vol.1 佐竹さん御夫婦 ～」



私たちは、名取市の増田（ますだ）地区で普段は「割烹いろはや」として営業されているお部屋を、経営者の佐竹さんご夫婦のご厚意により、宿舎として利用させていただいています。

旅行好きで面倒見の良い、とても素敵な御夫婦です。私たちは食・住の心配がないため、支援活動に専念できています。

今回は、無理にお願いをして、活動報告に登場していただきました。

編集後記

伝承あそびボランティア「おてだま」は、石狩市公民館で活動しており図書館や福祉活動などにも協力いただいているサークルです。

この度の名取市支援に賛同いただき、たくさんの遊び道具をご寄贈いただきました。お預かりしたおもちゃは、確かに子どもたちにお渡ししています。ありがとうございました。



「がんばろう、なとり」 No.3

東日本大震災 名取市支援活動報告

2011.4.14

本日はとても天気がよく、気温も20度ぐらいまで上がり、作業をしていると汗ばむ陽気でした。道端には桜の花も開花し始めています。

相変わらず余震は頻繁に起きており、体に感じる地震だけでも一日に何度も発生しています。このことは、避難所で過ごしている皆さんを始め、東北地方の多くの皆さんが、未だ一日中、心を休めることができない大きな要因となっていると思います。

私たちは、支援活動のため名取市に来るに当たっては、安全の確保は前提ですが、一定の危険の可能性があることは覚悟してまいりました。しかし、実際に、被災地の様子を目の当たりにし、夜中にも発生する余震を体験しているうちに、その覚悟を自分に何度も言い聞かせなければならなくなることがあります・・・。

被災地の方々の気持ちや感覚が、少しずつではありますが沁みってきています。

そんな中、人からもらう優しさや力が、大きな支えであり大切なことだと実感しています。



石狩市から「支援物資」と「図書館資料の整理用 段ボール」などが届きました。



名取市職員と地元ボランティア



無償で提供されたトラック

昨日(13日)石狩市で積み込んだ荷物は、支援物資は大人用オムツが75箱、乾電池6箱、ウェットティッシュ8箱、ボックスティッシュ1箱、さらに図書館資料の整理用の段ボール2,000箱が、本日届きました。

荷物を積んだトラックは、13日午後4時に石狩を出発した後、苫小牧港を午後7時に出航、本日(14日)の午前10時に仙台港に到着、支援物資受け入れ先の市体育館に午前11時に到着しました。

トラックに乗車してきた2名の方も率先して荷降ろしをしていただきました。



体育館には全国からの支援物資

体育館では全国から寄せられる支援物資の荷降ろしや種分け作業を市職員やボランティアが行っていましたが、石狩市からの支援物資の搬入も手伝っていただきました。

その後、図書館に移動し、図書館資料の整理用の段ボール2,000箱を下ろしました。こちらにはボランティアがいなかったため厳しい作業となりました。



2千枚の段ボール



窓からの搬入

今日も 地元のおはなしボランティアの方と いっしょに！

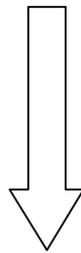
昨日も訪問した館腰児童センターに、今日も行ってきました。
今日も子どもたちは喜んでくれました。こちらも嬉しくなってしまう。
もう一つ嬉しかったことは、地元のボランティア（おはなしボランティア「キラキラ」）の皆さんとともに連日実施できたことです。とても意義があることではないかと思いました。

図書館2階の整理にも着手

1階は通路の確保などを行い、何となく先が見えそうな兆しを感じますが、2階は全くの手つかず状態。

少しでも整理を始めると、今後、ボランティアの力を借りるなどして本格的に整理に取り組むことができるのではないかと考え、勇気を持って始めてみました。

ほんの少しかもしれませんが、希望の光が見えてきたような気がしました。



2階の一角に輝きが



最初に見た時は、手をつける気には
なれそうもなかった新聞収蔵庫

編集後記

おはなしボランティア「キラキラ」の方が、自ら牛乳パックで作った「ももたろう」を館腰児童センターの子どもたちに優しい笑顔で披露し、子どもたちの笑顔も輝いていました。絵本を読み聞かせる情熱は名取市、石狩市と土地が違っていても同じであると実感した場面でした。

「がんばろう、なとり」 No. 4

東日本大震災 名取市支援活動報告

2011.4.15

避難所を訪問していると、多くの方々が支援に関わっていることが見えてきます。

今日、訪問した避難所を例にすると、市の職員の方はもとより、秋田県の職員、保健師、自衛隊、警察、市民ボランティア、さらには、高校や大学、市民活動団体など、多くの方が避難所の受付、物資管理、健康管理、施設維持、炊き出し、子どもたちとの関わりなど、役割が定まっている活動や、自ら考えて実行することなど、さまざまな状況があります。

避難所で生活している方々は、日々の支援の輪が広がっていることに感謝されていますが、そろそろ、「今後の住む場所が決まらない」「高校生に進学する娘の学費をどう工面しようか・・・」「農業をやっていたが、畑は使いものにならず新たな仕事に就く年齢でもない・・・」など、命が助かり、厳しい環境ではありますが緊急的にでも衣食住が確保できてきた今、次の段階に進む時期がきていることが伺えました。



炊き出しをする地域の女性



心を癒す演奏会

「子どもたちと遊んじゃいました」

～ あっという間の1時間半 ～



子供達の話に耳を傾けながら

高館小学校避難所へ行きました。伝承あそびボランティア「おてだま」さんから提供していただいた遊具を持参し、小学生数人と一緒に遊んできました。

ひもを使って回すコマは初めてだという小学生もあり、最初は四苦八苦していましたが、すぐにコツをつかみ、「どっちが長く回しているか勝負！」など、周りの友達や私たちと工夫して楽しもうとする様子も見られました。明るい笑顔で活発な印象が感じられ、私たちも本気で遊んでしまいました。

しかし、「ランドセル流された人もいるんだよ。」「閉上（ゆりあげ）小、流されなくて良かった！」と被災した際の状況を、ふとした会話の中で発した時の子どもたちの表情から、内面に受けている大きな心の傷も感じられ、初日に名取市長から伺った内容が思い出され、今後の心のケアが必要であると痛感しました。



コマ回し名人発見！！



石狩から来ましたと説明

子どもと遊んでいる横で、横になっている方に話しかけてみると、我々が北海道から来たことを知り、妹が旭川なんだと親しくお話をしてくれました。最初は、寝たままで元気がなさそうでしたが、お話が進んでくると声にも力が増し、写真撮影をお願いしたところ起き上がってくれました。農業をされており、病気を克服し今年も頑張ろうと決めていたが、畑も家も流された・・・、と切ない心情をお聞きしました。

「支援物資をお届けしています」

石狩市から届いた大量のオムツや電池、ティッシュなどの支援物資は、名取市の災害本部にお渡ししましたが、一部の物資は、直接の要望を受け、直接お渡ししています。

例えば、避難所は、市やボランティアの皆さんだけで運営されているのではなく、被災された方々自らも役割を分担して生活しています。

その中で、女性が関わる時に必要なエプロンがほしいとの要望がありました。できれば、暗くなりがちな雰囲気明るくするカラフルな色がいいと・・・。お届けをしたら大変喜んでいただき、すぐ試着してくれました。

また、社会福祉協議会を通じ、精神薄弱者通所授産施設にも缶詰や水をお渡ししました。



喜んで試着してくれました



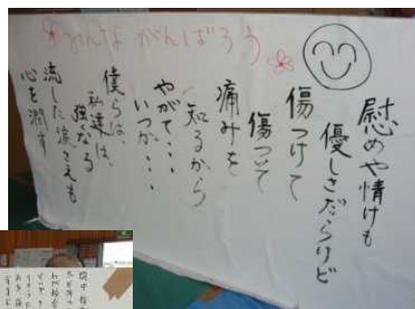
左から、名取市図書館長、社会福祉協議会会長

「図書館のお片づけ」

2階のメインサーバーがあるコンピュータ室の整頓を行いました。

この部屋もロッカーが倒れたり書類が散乱するなど、大きな揺れの影響をまともに受けた状況が伺えました。

作業は、比較的順調に進み、短時間で元の状態になりました。



避難所で隣同士の敷居に立てられた段ボールには、学校の校歌なども書かれています

編集後記

たくさんの方とお話をさせてもらう機会をいただいています。そんな中、子どもたちはいつも私たちに元気をくれます。こちらに来るまでは、自分の元気を少しでも置いてこようと思っておりましたが、逆に元気をいただいています。

大変な時こそ「笑顔」と「元気」。心からそのように思う毎日を送っております。(Y)



「がんばろう、なとり」 No. 5

東日本大震災 名取市支援活動報告

2011.4.16 / 17

名取市を訪問して 早 一週間・・・

週末は **学び** の2日間となりました。

16日

午前中、避難所を回り、午後からは仙台市の図書館を視察してきました。

仙台市内の図書館も地震による被害が大きく、建物自体にダメージを受けており、本も書架から落下して整理が必要なので、開館するまでには一定の時間を要する状況のようです。

しかし、サービスを待っている利用者に僅かな冊数でもなんとか届けたいという気持ちが、青空の下での移動図書館（バス）や、ブックトラック（本を運搬する道具）を利用した臨時図書館開設の様子から感じ取ることができました。そこでは、ハンディ - スキャナー（資料情報のバーコード読み取り機）が活躍しており、災害が生じた際に図書館の機能をいち早く復旧するためのグッズの活用方法などについて、視察を通して勉強することができました。



建物が危険で入れないため、
玄関先で臨時開館する「若林図書館」



被害の状況を写真で公開、利用者登録の相談も実施している「仙台市民図書館」



「避難所担当職員と物資の確認作業に同行」



昨日訪問した高館小学校へ再び行ってきましたが、そこでは数名の学生ボランティアが子ども達とかかわって活動していました。

また、移動動物園もやってきて、ウサギやモルモットなど小動物と触れ合ったり、ヘビを首に巻きつけたりして楽しんでいる子ども達の笑顔は輝いていました。動物や植物など身近にある様々なものからパワーをもらい、子ども達は元気になっていくものなのだと感じさせられました。



「避難所（名取市第1中学校）へ エプロンを届けました」



子供と遊ぶ学生ボランティア



担当の方が不在で、その娘さんに
皆さんの分も手渡してきました

こちらの避難場所では、日中、大人の数が少なくなってきた感じが感じられ、避難している方々が自分達の生活を確立していくための活動を模索し始めていることが窺われました。

避難所で生活する方は、「間もなく学校が始まる。特に、子供のいる家族は、親戚を頼ったり、アパートを借りるなどして避難所を出ていくことが多くなってきている」と話していました。

今後、被災されている方々に対してどのような支援が必要であるのかなど、具体的な方法について考えるべき時がきていることを改めて感じさせられました。

また、東北福祉大学の学生が子ども達と遊んであげるボランティアを行っていました。随所で大学の取組による学生ボランティアが活躍している様子を目にします。

17日

今日は、一日、お休みをいただき

ました。休みを利用して、仙台空港、岩沼市、亘理町などの被災状況を視察しました。こちらに来てすぐに、閑上（ゆりあげ）地区を視察し、被害の大きさや悲惨さを目の当たりにして、状況を理解したつもりになっていましたが、改めてショックを受けてまいりました。



すぐ奥に見えるのが、一部再開した仙台空港。自然災害の恐ろしさと、それに対してくじけずに復興していこうとする人のたくましさとを同時に感じさせます。しかし、言葉で言うほど簡単ではないことも感じさせられます。



編集後記

避難所の入り口横に、自転車が置かれていることがあります。子供の多い避難所には、子供用の自転車も用意されています。

右の写真は郵便局ではありません。ある避難所に郵便配達用の赤い自転車が置かれていたので、珍しい光景だと思い記録に残しました。

（追伸）ボランティアの方へのおもてなしの話題をテレビで見ました。実は我々も、土曜日に名取市内のお店で昼食を食べた際、お代は結構ですと言われ、おもてなしを受けてしまいました。誠に恐縮です。



「がんばろう、なとり」 No. 6

東日本大震災 名取市支援活動報告

2011.4.18

「図書館の資料整理を本格的に始めました」

地元のボランティア6名も 応援してくれています

今日から2日間の予定で、離れの2つの倉庫の整理を始めました。2つの倉庫に保存されている約3万9千冊のうち、7割以上が書架から落ちている状態で、ほこりにまみれています。

今回を機に、古くて汚れがひどいなどの本は廃棄することも考えられるので、まずは、軽く汚れを落とし、一度、棚に戻してから、その判断をすることにしました。

2つの倉庫のうち、散乱した本の数が多い倉庫から着手し、概ね7割程度まで作業が進みました。明日で2つの倉庫の作業が完了するよう頑張ります。



ボランティアに日程等の説明をする 名取市図書館の司書



具体的作業手順などは、石狩市民図書館の司書が説明



作業をするために、まずは足の踏み場を確保することから



棚に収まらない本は、一度外に出して作業スペースを確保



本で床が見えない状態から、かなり作業が進みました



編集後記



黙々と作業をするボランティアの皆さん。あまりの真剣さに、午後からは、リラックスできるようにラジオを用意したほどです。本当にご苦労さまです。

「陰ながらできる お手伝いの 喜び」 支援活動の「前半」をふり返って -

～ 市民の方が 再び本を手にとれる日を 願って ～

私たちが名取市に到着したのは、地震発生から1カ月の時期でした。避難所や市役所庁舎などを訪問すると、市職員や災害対策関係者が、目の前にある命や生活に関わることなどの緊急的対応に追われており、緊張感がひしひしと伝わってきました。今は、そのことに加え、復興という課題にも立ち向かっていらっしやいます。

そのような中、図書館の職員は、一刻も早い図書館の再開を願いつつ、避難所担当や罹(り)災証明発行などの緊急に対応しなければならぬ事務や作業にも従事しています。

我々にできることは、図書館がどのように再開するようになるかはわかりませんが、その時に、すぐ対応できる準備をしておくお手伝いではないかと思っています。この考え方を、名取市の図書館はもとより、教育委員会や市役所もご理解をいただき、石狩市を気持ちよく受け入れていただいたのではないかと考えています。

今回の支援活動について現地の方から「今、図書館支援なのか？」「優先すべき支援は何なのか？」など、ひょっとしたら疑問をもたれる方がいるのではないかと・・・、そんな不安が全くなかったわけではありません。

しかし、私たちは、この一週間、「本はきっと人々の心の癒しになる、図書館の再開は復興の力となる。」石狩市を出発する際に、田岡市長が私たちに力強く言って送りだしてくれたことを心の支えに、また、教育長始め積極的に支援環境をつくっていただいた職場、さらには、市民グループや企業の協力を背景に、自信を持って地元の読み聞かせや災害などのボランティアの方々といっしょに、取り組むことができたと思っています。

微力ではありますがお手伝いができたことを、とても嬉しく思います。本当に、ありがとうございました。



図書館で作業をしていると、市民の方から日に何本もの電話がかかります。ほとんどが、いつから再開するかという問い合わせです。閉館していることがわかっているにもかかわらず、直接、来館される方もいらっしやいます。時には、「いつまで閉館しているんだ！みんな頑張っているんだぞ」と、怒りをぶつけていく方も・・・。

いずれにしても、図書館を愛し、再開を待ちわびていることに違いないのです。部外者が差し出がましいと承知しつつ、しかも、建物の状態や職員体制など現実的な課題は多いと思いますが、一日も早く図書館サービスが再開されるよう心から祈るとともに期待しています。



ブックンボックスを置かせてもらった場所に、再度行ってみました。嬉しいことに利用していただいていた。(上) 児童センター
(下) 文化会館



滝川市が文化会館を訪問、一緒に本やおもちゃの整理をしました。同市は宮城県内の被災地を移動図書館車で訪問しています。

「 離れの2つの倉（書）庫の整理が ほぼ完了 」

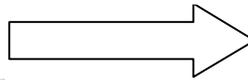
雨が降り肌寒い気候の中、地元のボランティア6名の皆さんと一緒に作業しました。約3万9千冊の本は、ほぼ整理された状態で書架に戻りました。

ボランティアの方は、昨日と人の入れ替わりはありましたが、今日も一生懸命の方ばかりでした。



こんなに キレイに！

離れの平屋倉（書）庫



離れの2階建て倉（書）庫の2階

編集後記

名取市滞在の10日間は、あっという間に過ぎました。当初は、被災地域に入ることや長期間の滞在予定に不安を感じることもありましたが、一緒に来た仲間や、名取の方々と共に活動をしていくにつれ、協力して活動していく充実感を味わわせて頂きました。感謝です。（T）

余震に怯えながらの毎日でしたが、全てが貴重な経験となりました。被災にあった人、それを支える方々、災害時の行政運営など、見て・聴いて・感じて、改めて日本で大震災が起こったことを実感しました。お忙しい中で報告書の配信・視察・打合せなど、毎日対応していただいた名取市図書館の皆さんに感謝申し上げるとともに、これを機に交流が進み、復興に向けてさらなる支援ができることを祈っています。（Y）



一度手を付けるとやめられなくなる作業

「がんばろう、なとり」(報告)は、今回で前半を終了します。

この度の名取市支援活動は、4月11日から5月1日までを予定していますが、前・後半で職員が入れ替わります。後半は、使用できない本などの分類などにも着手します。

現場からの速報のため、文章の誤りや不適切な表現などがあつたかもしれません。お許しください。

東日本大震災 名取市支援活動報告

支援活動は「前半の班(4/11~20)」から「後半の班(4/22~5/1)」にバトンタッチします。その間、少しだけ近況報告します。

「被害の大きかった閑上小、閑上中が始業式」

不二が丘小学校の校舎を使用して再開

閑上小学校、閑上中学校は、被害が大きく使用できないため、不二が丘小学校の校舎を使用して新学期を迎えました。

不二が丘小学校は、過去に千人を超える児童数がある大規模校でしたが、現在は400名程度まで減少し、校舎に余裕があるようです。

校舎を案内されると、既存の不二が丘小学校の先生や児童は、新たな仲間達のために、また、閑上小、中学校の先生は自校の子供たちのために、精いっぱいのお気持ちを込めてお迎えようとしていることが伝わってきました。



仲間を迎え入れる不二が丘小



名取市図書館が「閑上小・中」に団体貸出をします！

～ 石狩市の「ブックンボックス」ケースが 貸出のお手伝い ～

名取市の全小中学校の学校図書館には、正職員の司書が配置されている環境にあります。もちろん、引っ越してきた閑上小・中には司書が配置されていますが、図書室はなく階段の踊り場を活用したり、本の数も十分ではありません。



踊り場を利用した図書室



心を込めてお迎え

そこで、名取市図書館は、学校への支援として、閑上小、閑上中の合わせて15学級の全てに団体貸出(学級単位で40冊程度のセットをつくる)を行なうことにしました。

この名取市図書館の取組に、石狩市では「ブックンボックス」という



閑上中の校長先生(左)司書(右)も喜んでくれました

名称で同じような取組をしていることから、石狩市民図書館で使っているケースを寄贈し、使っていただくことにしました。

このケースは、後半の班(4/22夜到着)が持参します。

「名取市図書館が 始動の準備」

～ GW明けをめどに 「まずは、できることから」 ～



建物には、一般の方は未だ入ることはできません。具体的な解決策を見出すには、一定の時間を要するものと考えられます。

職員も避難所や罹災証明の事務などにも従事していることから、通常のサービスができる体制ではありませんが、何かできることを考え行動するとのことでした。

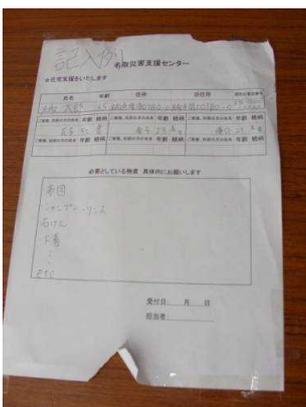
建物の外での貸出、返却の作業にならざるを得ない状況で、冊数や取り扱いができる時間なども制限が予想されるなど、十分な環境ではありませんが、できることから始めようという考えに、敬意を表するとともに、できる限りの応援をしたいと思います。

名取市図書館職員の皆さんからは、「石狩市の応援があり、早期の対応が可能となりました。こんなに早く行動できるまでに、多くの支援と元気をもらいました。」と感謝の言葉をいただきました。恐縮です。そして、感無量です。

「改めて市役所を訪問しました」



今でも、不明者を探している人、罹災の関係の手続きをしてしている方など混雑しています。現実、あまりにも生々しいものです



避難所で生活している方々も厳しい毎日をお過ごしされています。

また、被害を受けても、自宅で頑張っている方もいらっしゃると思いますが、そんな方へ、必要な物資を支援する取組が行われていました。



百年前の万国博覧会に挑んだ男

高橋儀兵衛とトリノ万博

会場:石狩市民図書館

期間:平成23年4月26日~5月8日



明治36年の高橋儀兵衛氏(高橋恵美子氏寄贈)



「氷頭」缶詰ラベル(田中實氏寄贈)

主催 いしかり砂丘の風資料館、石狩市民図書館

問合先 0133 - 62 - 3711(いしかり砂丘の風資料館)

平成23年4月26日(火)～5月8日(日)

高橋儀兵衛とトリノ万博

会場：石狩市民図書館 研修室 1

高橋儀兵衛（たかはし ぎへい）

明治～大正時代に鮭缶詰、スモークサーモンなどの水産加工、輸出業に携わった事業家、石狩町会議員。嘉永6(1853)年7月、越後国南蒲原郡加茂町(現新潟県加茂市)生。明治14年来道、明治17年小樽から石狩に転居した。明治20年から開拓使石狩缶詰所の事業を引継ぎ、後に缶詰所の払下げを受ける。鮭缶詰のほか鯨肉の缶詰、スモークサーモン、筋子の粕漬、塩漬けニシンなどの製造を行った。中断期はあるものの水産加工品の製造は明治末年まで続いたと考えられる。

国外への販路の拡大に熱心でオーストラリア、ヨーロッパ、中国などで活動した。各種品評会への出品も積極的で、1900年パリ、1902年ハノイ、1906年ミラノ、1911年トリノの各万博に出品し、パリ万博、ミラノ万博では金賞を受賞している。石狩町では高橋合資会社を経営し、石狩川汽船株式会社の経営にも参画した。事業上の浮沈は多かったが、明治40年から大正4年にかけて石狩町会議員を勤めたほか、石狩消防組合組頭を務めるなど町の名士、長老として知られた。大正10(1921)年7月25日没。69才。



石狩市社会教育施設連携プロジェクト共通テーマ

見て、知って、楽しむ「ふるさといしかり」